

# 文教施設研究講演会

日時: 2026年2月10日(火) 13時45分~14時15分

会場: 文部科学省3階講堂(東京)

基調講演  
タン・ウン・セン

シンガポール国立教育研究所 教授  
特別プロジェクト学部長  
人格・シチズンシップ教育センター所長

## シンガポールの教育と学校改革の近年の主な動向

# シンガポールおよび国立教育研究所からのご挨拶



# 概要

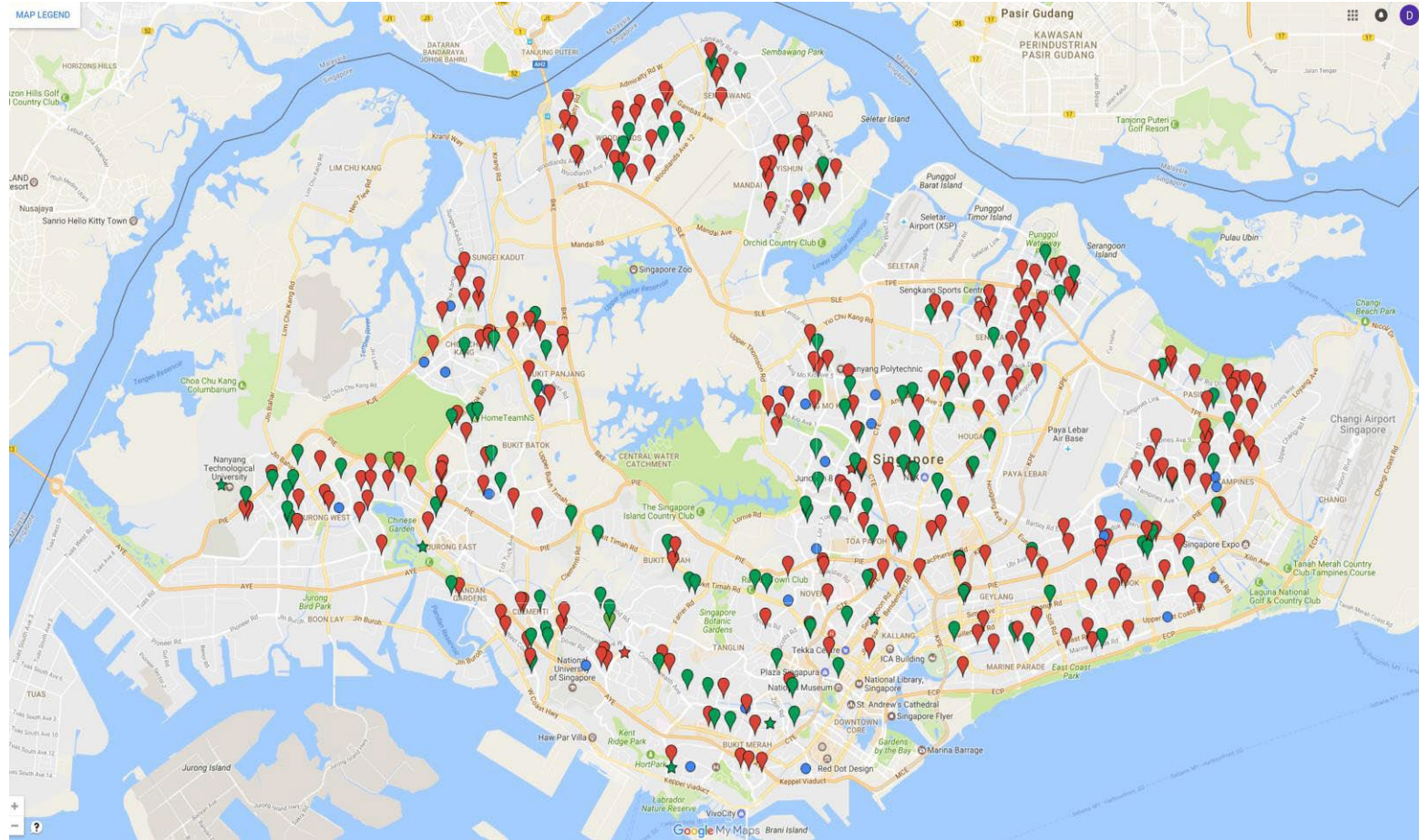
- シンガポールの教育環境の紹介
- シンガポールの教育制度の変遷（初期段階）
- 教育と学校における最近の動向
- 複雑化する世界と将来への備え
- 結論

# シンガポールの教育環境の紹介

- 資源が限られた小国
- **人材**は国家にとって最も重要な資産である
- **教育**は国家発展の中核的推進力である



# シンガポールの学校配置



出典 : <http://weelookang.blogspot.com/2015/03/google-map-layers-and-open-data.html>

# シンガポールの教育環境

## シンガポールの 公教育



### 教育省 (MOE) 管轄の幼稚園

- 教育省 (MOE) 立幼稚園: 約50園



### 学校

(小学校、中等学校、ジュニア・カレッジ  
〔大学進学準備課程・2年制〕)

- 学校数 : 約350校
- 生徒数 : 約40万人
- 教員数 : 約3万人
- 教育補助職員 (Allied Educators)、幹部職員および管理職員を含む



### 高等教育機関

- 自治大学 (Autonomous Universities: AU) : 6校
- ポリテクニク (職業・技術系高等教育機関) : 5校
- 技術教育機関 (Institute of Technical Education: ITE)
- 公的助成を受ける私立芸術機関 : 2校 (LASALLE、NAFA)

# 人材への戦略的投資：教育は、シンガポールの発展にとって国家の責務である

- **シンガポールの国家予算における第3位の支出**

教育は常に政府支出の上位3分野の一つであり、人材開発への長期的なコミットメントを反映している。

- **国家の存続、成功、そして意義の基盤**

資源の乏しい国から世界的なハブへと変貌を遂げたシンガポールの開発戦略は、質の高い教育を通じた国民への投資を中核に据えている。

- **社会流動性と公平性的手段としての教育**

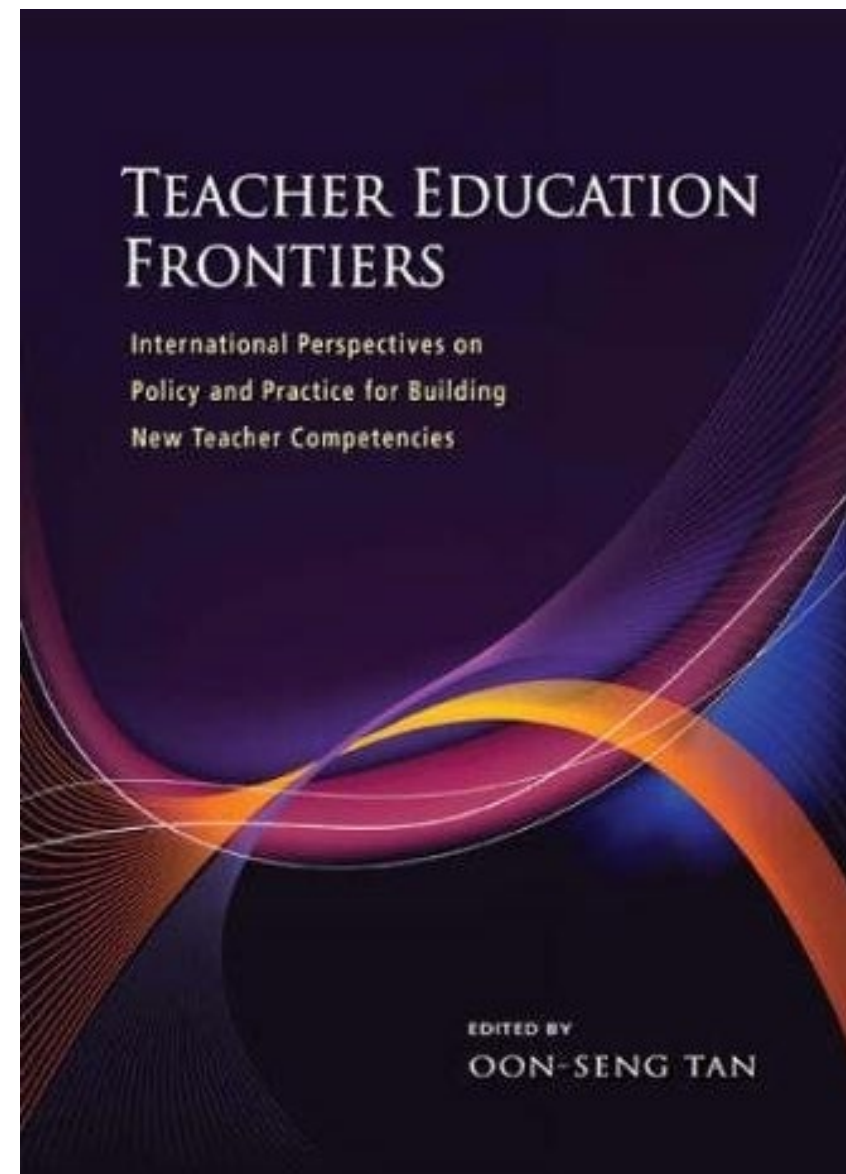
政策は、恵まれない人々への的を絞った支援と、思いやりのある実力主義へのコミットメントに基づき、すべての人々に教育へのアクセスと機会を保障している。

# 教育は、国家の将来を見据えた 長期的な中核投資である。

そして、教育の質は次の点に大きな影響を与える。

- 国家建設
- 人々の適応力
- 価値創造および価値の維持/継承
- イノベーション生み出す能力

ウン・セン・タン教授

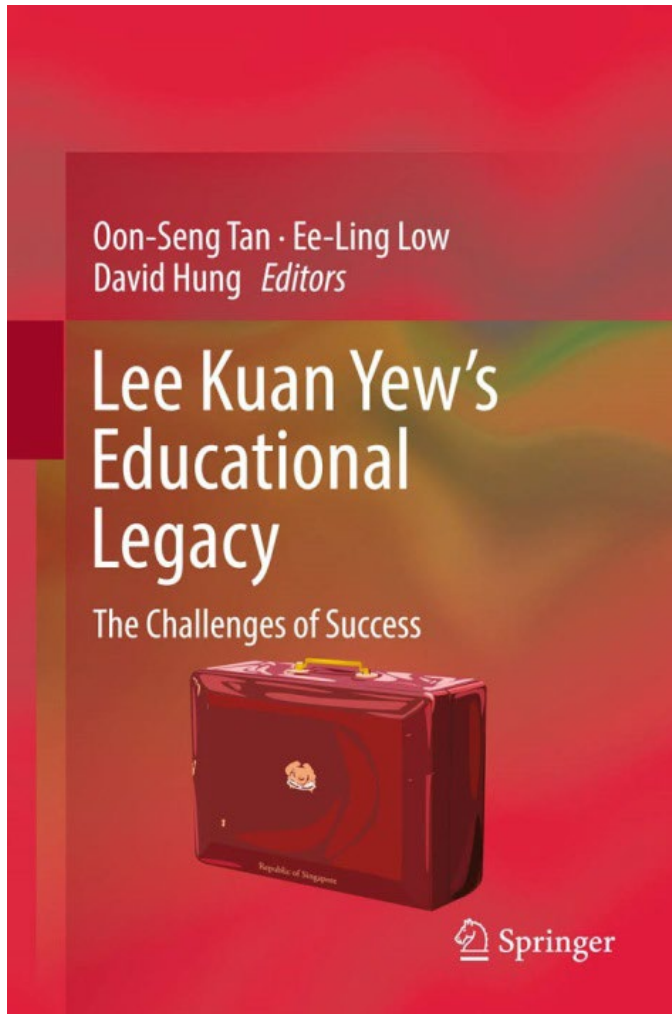


# 教育の根本目的

「善良な人間、そして有用な  
市民を育てること」

リー・クアンユー  
(シンガポール初代首相)

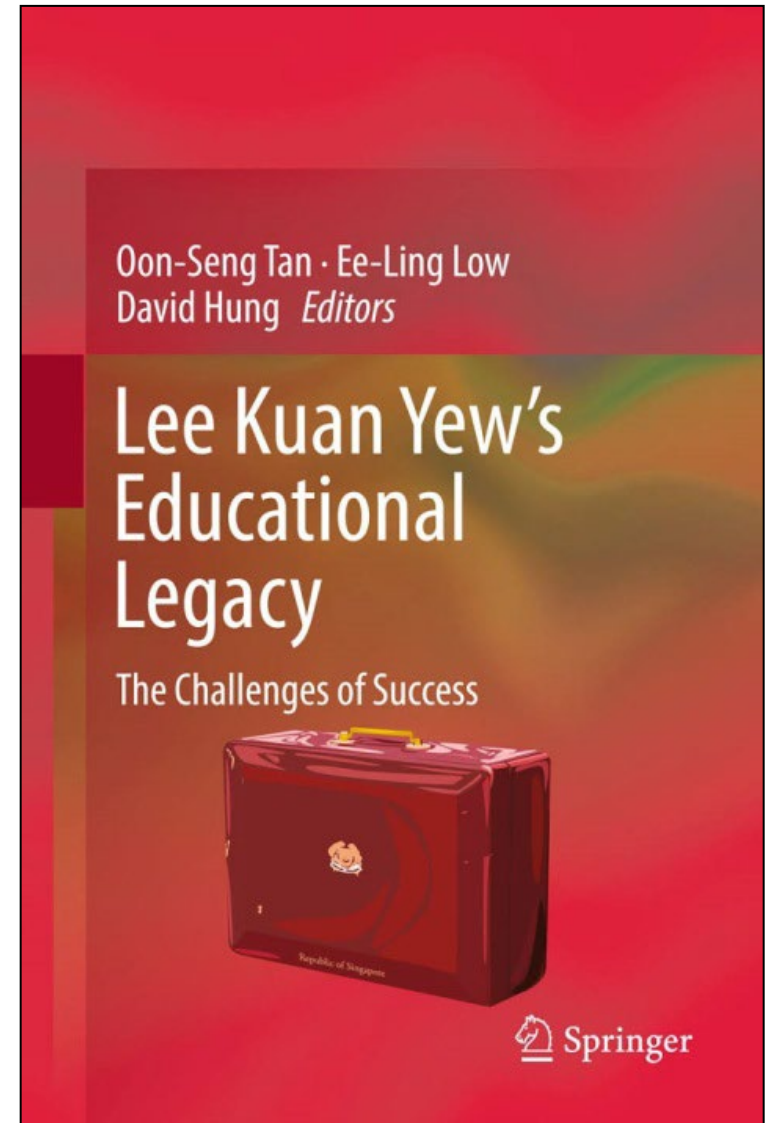
人格を基盤とし、その上に能力を築くという  
教育観である。



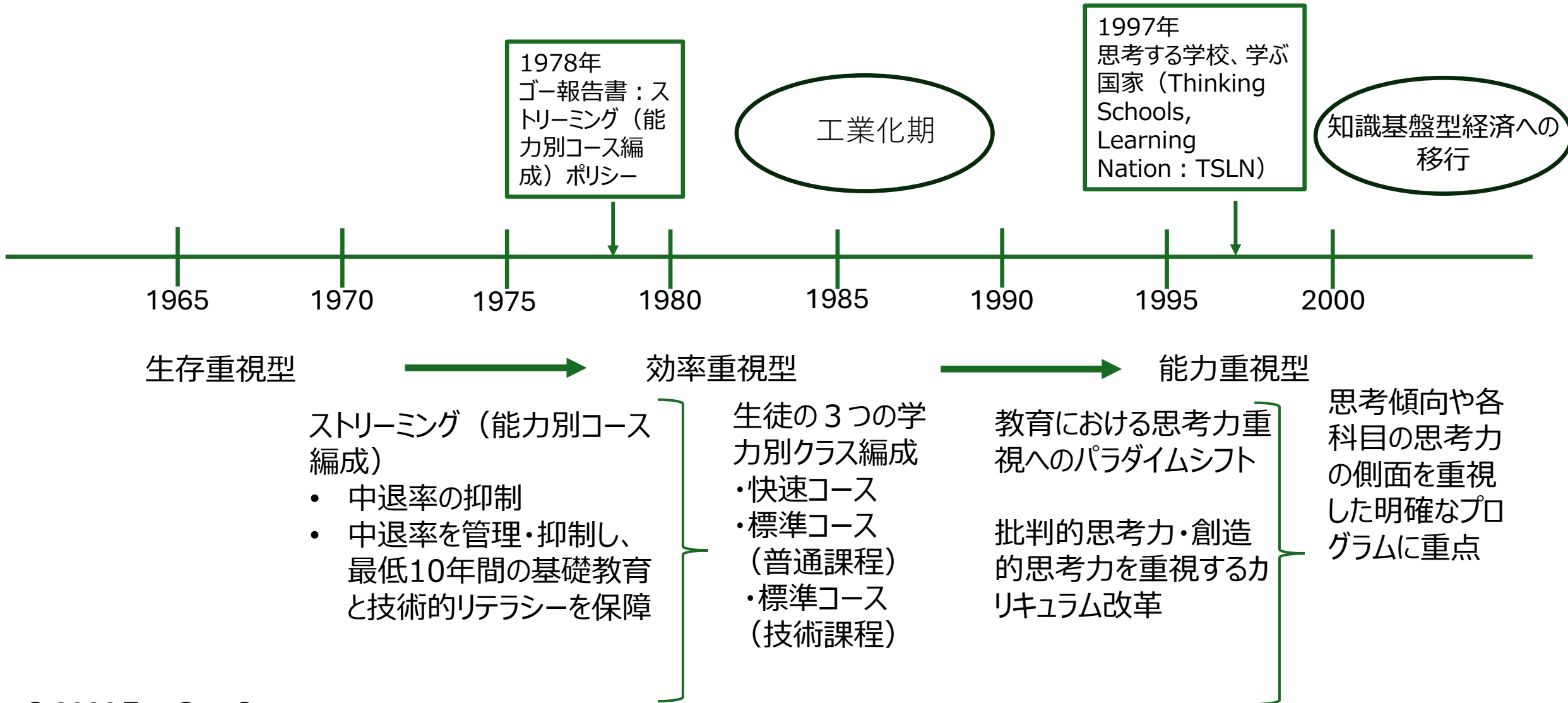
# 教育の重要性

## リー・クアンユーの教育遺産

- 「教育は、あらゆる人々の**長期的な未来**への鍵である」  
(1993年)
- **すべての子ども**の潜在能力を最大限に引き出す
- 「今日の若者こそが、**明日**のリーダーであり市民である」  
(1959年)
- 理想的な人材像とは・・・強靱さ、卓越したスタミナと忍耐力、**高度な知的規律**、そして**謙虚さと地域社会への愛**を備えた学生 (1966年)
- 教養ある人間とは、「**学ぶことを決してやめず**、学び続けようとする人」である (1977年)



# シンガポールの教育制度の変遷（初期段階）



# 学校施設の近代化：TSLN期の基盤整備（1999～2005年）

- 既存学校再建・改善プログラム（PRIME：Program for Re-building and Improving Existing Schools）
- 7年間で290校を改修・再建

# 教育改善の段階

- **基礎段階**（初期国家建設）  
アクセシビリティと基礎教育の確立（数的思考力、読み書き能力、市民性）
- **進歩段階**（産業化期）：  
パフォーマンス向上の可能性（能力重視型と品質）、TSLN（Thinking Schools, Learning Nation; 思考する学校、学ぶ国家）、TLLM（Teach Less, Learn More; 教えを少なく、学びを多く）
- **進路多様化段階**（学問から総合的学習へ）：  
全体論的なアプローチと価値観教育、就学前教育、EdTech（教育技術）、FSBB（Full Subject-Based Banding; 教科ごとでの習熟度別編成）、パーソナライゼーション

**工業化期**  
(1959-1978)

**スキル／資本集約期**  
(1979年-1996年)

**知識基盤期**  
(1997年-2011年)

**イノベーション重視期**  
(2012年-2019年)

**未来経済期**  
(2020年～)



**生存重視型**



**効率重視型**



**能力・意欲重視型**



**生徒中心・価値観重視型**



**生涯学習**

**生存**

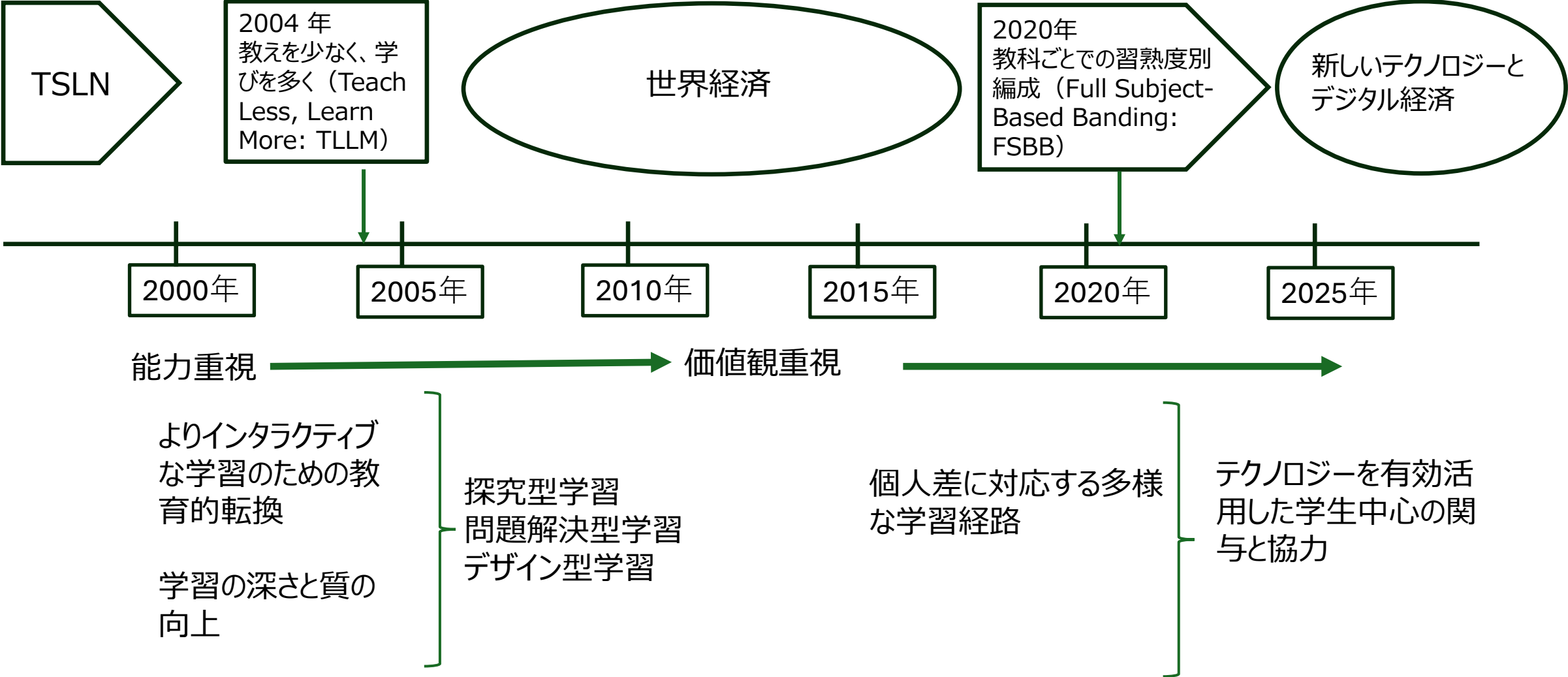


**繁栄**



**人類と社会の継続的  
繁栄**

# 教育と学校における最近の動向



## TSLN

(思考する学校、学ぶ国家)

思考力重視カリキュラム

ICTマスタープラン1

学習環境

シンガポールにおける未来の学校構想

プロジェクト活動 (Project Work)

- コンピューターとマルチメディア
- プロジェクトワークスペースのための設備
- 図書館リソース

## TLLM

(教えを少なく、学びを多く)

教育革新

ICTマスタープランの継続的改良

テクノロジーを活用したインタラクティブな学習環境

生徒の学習意欲を高める教授法

教師の専門能力開発

- インターネットおよびデジタル設備
- 柔軟な教室空間 (インタラクティブ重視)
- 協働学習空間
- 教師の専門能力開発用スペース

## FSBB

(教科ごとでの習熟度別編成)

個別学習

個別学習およびデジタル学習を支えるAI

柔軟な学習空間

特別支援教育に対する支援強化

- 休憩空間
- 多目的室
- デジタル学習空間
- 個別学習空間
- クリエイティブな図書館空間
- コミュニティエンゲージメント空間

# 柔軟な物理的・学習空間の創出 TLLM

- 包括的施設整備から柔軟な学校インフラ（Flexible School Infrastructure : FleSI）への移行
- 可変型教室と教育技術（EdTech）の活用

# FSBBとテクノロジー環境

- 2030年Ed Techマスタープラン
- 学生の学習空間の設備
- テクノロジーを活用した柔軟な教室設計

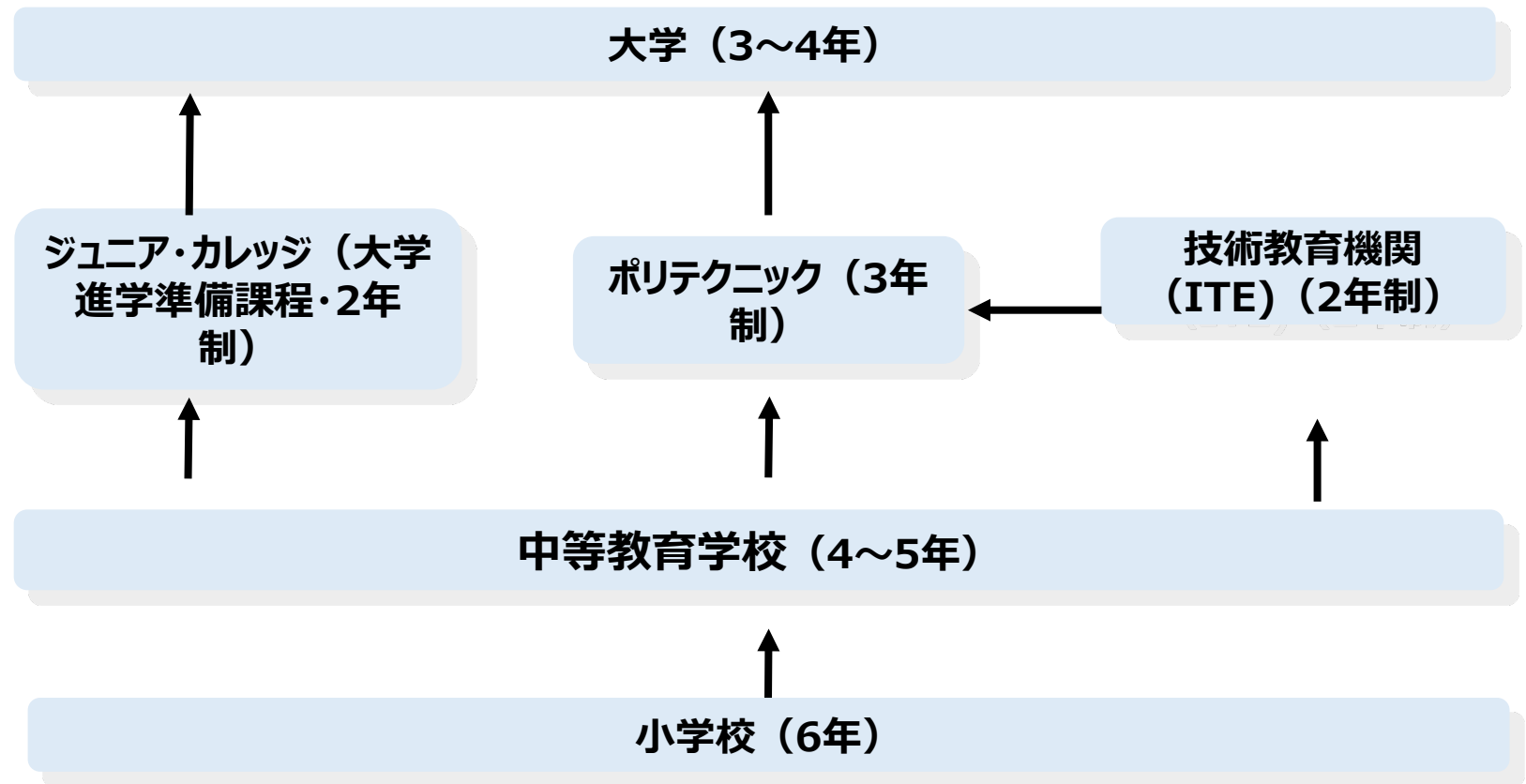
# 複雑な世界で活躍する次世代に求められる資質

- 学び、適応する俊敏性
- 改善し、発明する創造性
- 人間関係を構築する力
- 多様な強みを結びつける能力  
(コネクティビティ)

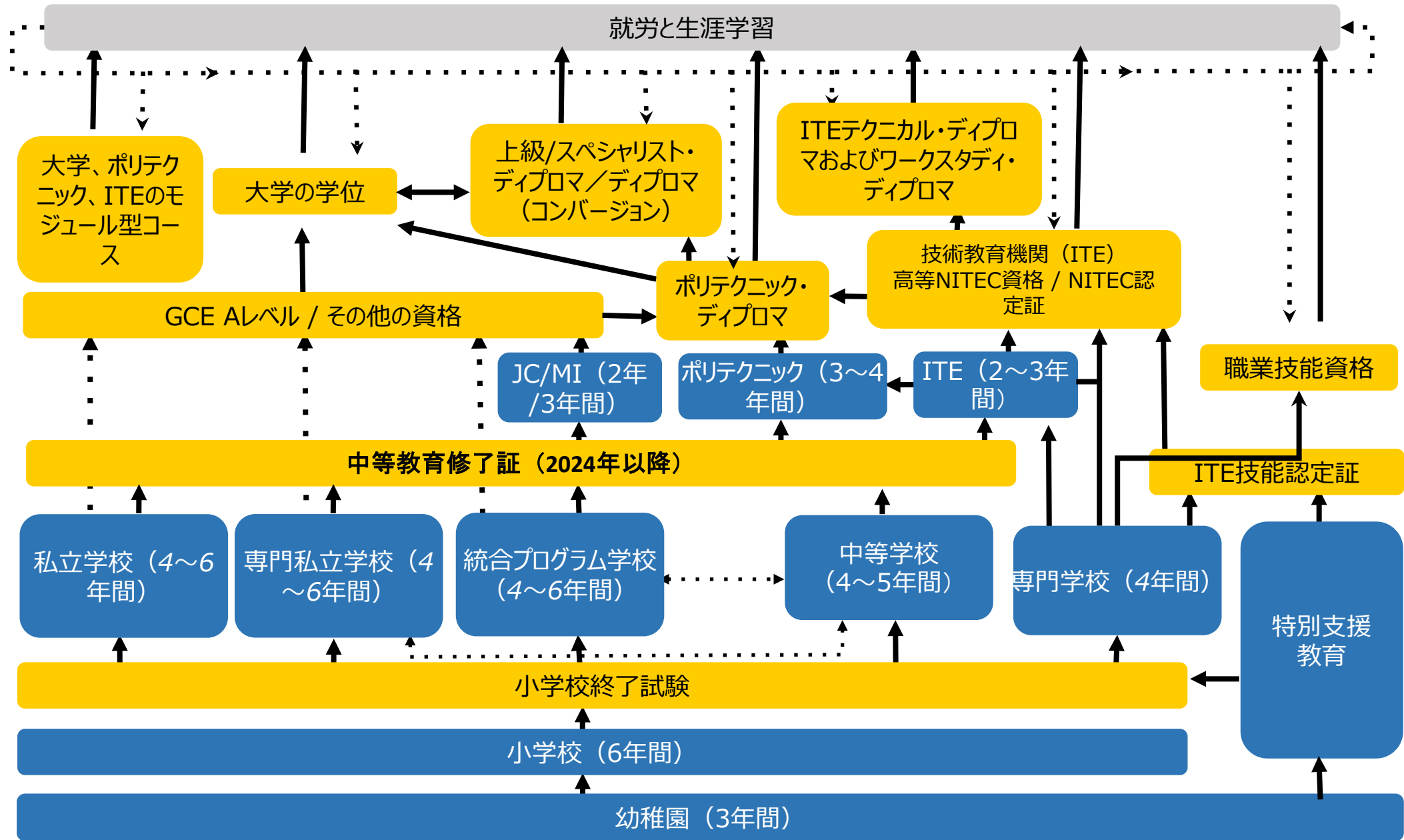


# すべての人に教育の機会を保障する：画一的な教育から多様な進路へ

## 過去の教育経路：



# 教育の道：就労と生涯学習へと続く進路体系



# 複雑化する世界と将来への備え

- ローレンス・ウォン首相は、2024年全国集会において、シンガポールは「教員が働きやすく、生徒が学び、交流し、協働できる環境」の整備をさらに強化すると発表。
- 今後10～15年間にわたり、教育環境および教育運営の変化に対応するため、学校インフラへの投資を段階的に進める方針である。
- 恵まれない環境にある生徒や、多様な学習ニーズを持つ生徒への支援のため、追加的リソースにも重点的に投資する。
- 2025年度予算では、学校建設およびインフラ整備向けの開発支出として8億5,200万シンガポールドルが計上され、2024年度の4億5,100万シンガポールドルから大幅に増額された。

# 教育の発展を理解するための視点

- 世界的な動向
- 実社会での仕事
- 教育のエコロジー

現代社会のトレンド：

# 不安と恐怖

現代社会は不安と恐怖に満ちている！

# 不安と恐怖

- 分断された世界：社会のあらゆるレベルで分断が進み、前例のない規模での二極化が進行している。
- 生態系の悪化：気候変動の影響が拡大し、広範な地域を壊滅させ、大規模なコミュニティに深刻な影響を与えている。
- 人工知能の進展：特に汎用人工知能（GAI／AGI）の台頭は、人間の生活、仕事、教育のあらゆる領域を根本から変える可能性を持つ。
- レジリエンスの低下：あらゆる世代において、精神的困難やうつ状態に直面する人々が増加している。
- ソーシャルメディアとトレンド：デジタル環境は、次世代の価値観や精神の形成に強い影響を与え、再構築している。

# シンガポールのAIへの国家的アプローチ

- 世界的な構造変化を先取りし、貿易、金融、航空、海事、デジタル・イノベーションなどの分野において、戦略的ハブとしての地位を確立することが、シンガポールの国家戦略の中核である。
- シンガポールの国家戦略は、以下の三つの主要原則に基づいて推進されている：
  - 国家戦略や政策に対する、大局的かつシステムレベルのアプローチ
  - セクターや省庁を横断した、統合的な計画と実行
  - 人材育成・能力開発への積極的投資

# 2030年EdTechマスタープラン：4つの戦略的成果領域

- 生徒（Students）      デジタル力を備え、未来を見据えた学習者・イノベーターの育成
- 教員（Teachers）      テクノロジーに精通し、学習を協働的に設計できる専門人材
- 学校（Schools）      インテリジェントで応答性が高く、デジタル設備を備えた学習環境
- システム（System）      信頼性が高く、ネットワーク化されたEdTechエコシステム

# OS Tan 思考モデル

OS Tan思考モデルに沿って、**HIGHER思考モデル**を開発。教員、そして生徒がAI主導の世界を意図と知恵を持って生き抜くための、認知的・倫理的枠組みを提供する。

- **H – Helicopter Thinking (ヘリコプター思考)** 全体像を把握し、学際的なつながりを構築。AIからの学びをより広い文脈の中で捉える力
- **I – Inferential Thinking (推論思考)** データやパターンから、文脈に即した洞察や意味を導く力
- **G – Generative Thinking (生成思考)** 適切な問いやプロンプトを用いてAIを活用し、多様なアイデアを探究、新たな知識・革新を生み出す力
- **H – Human-Centric Thinking (人間中心思考)** 共感や人間関係、学習における社会情動的側面を常に重視する姿勢
- **E – Ethical Thinking (倫理的思考)** AI活用における結果と責任を認識し、原則に基づいて意思決定を行う力
- **R – Reflective Thinking (内省的思考)** 過去の経験を、未来志向の計画や個人的な意味づけと統合する力

# AIとともに知恵を働かせる

AI導入・活用におけるABCDEフレームワーク。AIを導入・活用するあらゆる場面において、以下の5つの観点について深く考えることを推奨する。

- **A - Accuracy and Authenticity (正確性と真正性)** 誤情報やディープフェイクが蔓延する中、AI生成情報の信憑性・信頼性を、どのように検証し、判断すべきか。
- **B - Bias (バイアス)** すべてのデータは特定の視点や前提によって形成されている。AI出力に含まれる前提条件や文化的視点を、私たちはどこまで認識できているのか。
- **C - Constraints (制約)** AIには、専門的判断や高度な文脈理解を要する分野で依然として限界がある。こうした制約を理解し、人間の洞察力でどのように補完すべきか。
- **D - Dependence (依存)** 批判的思考者を育てているのか、それとも学習者はAIに依存し、主体性や好奇心を失っているのか。
- **E - Ethics (倫理)** 学習者の行動を監視・予測・プロファイリングするシステムにおいて、データのプライバシーや人間の尊厳を守り、責任あるAI利用をどのように確保すべきか。

# 先を考える

(全体像を把握し、将来に備える)

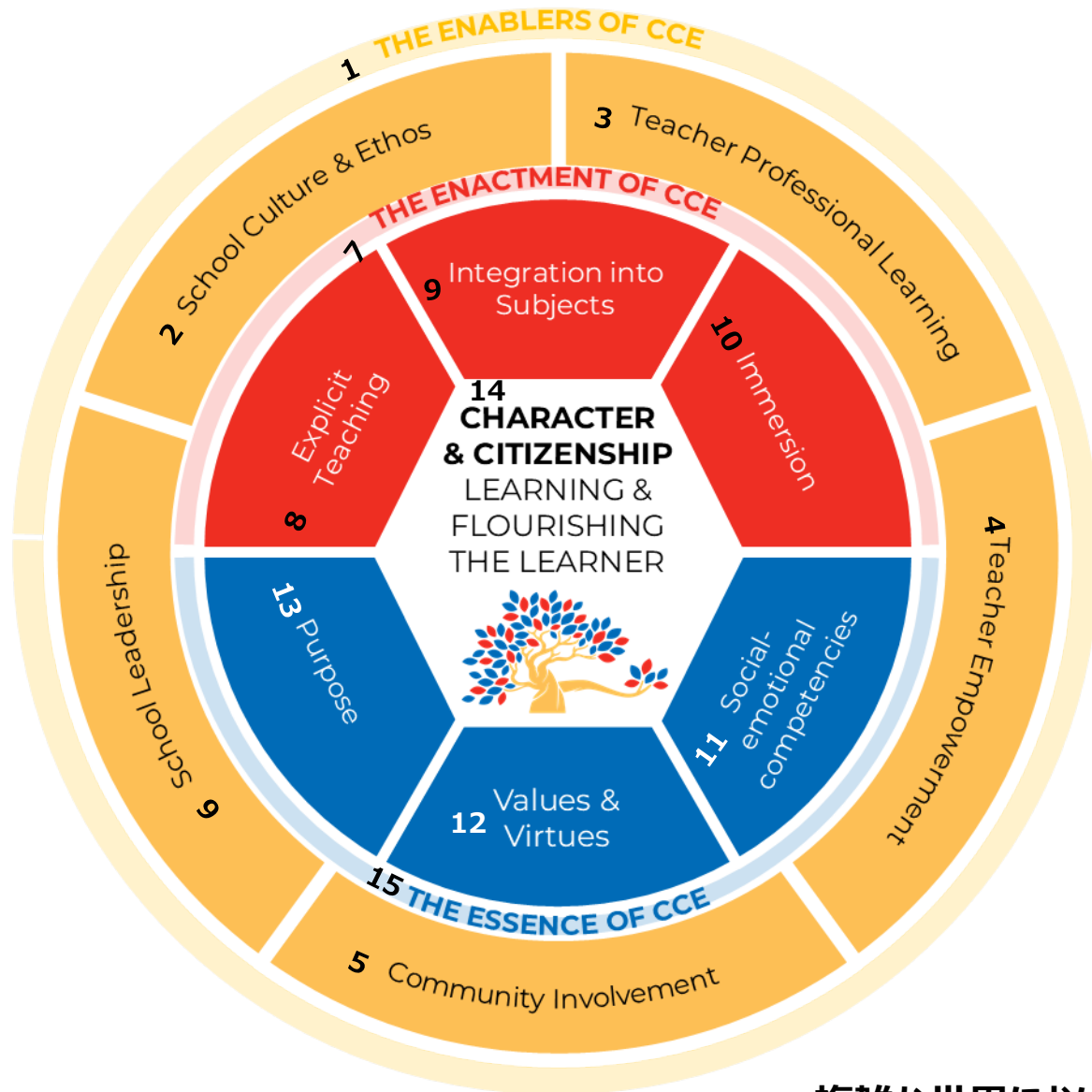
# 再考する

(前提を問い直し、適応する)

# 横断的に考える

(分野横断的な連携と一貫性)

# シンガポール人格・シチズンシップ教育センター (SCCCE)



## 1 人格と市民性教育 (CCE) を支える要素

- 2 学校文化と精神
- 3 教員の専門的学習
- 4 教員のエンパワーメント
- 5 コミュニティへの関与
- 6 学校リーダーシップ

## 7 CCEの実施

- 8 明示的学習
- 9 教科への統合
- 10 イマージョン教育
- 11 社会情動的能力
- 12 価値観と美德
- 13 目的

- 14 人格と市民性  
学びと成長  
学習者

## 15 CCEの本質

複雑な世界における人格と市民権のための枠組み

© 2026 Singapore Centre for Character and Citizenship Education

# 適応領域：カリキュラムの動的的理解

- 今日の世界は地球規模・社会的課題が複雑化し、情報量も膨大。すべてをカリキュラムに盛り込むことは、事実上不可能。
- 教育は結果重視から、**プロセス重視・エコシステム重視**へシフト

# 学校改善アプローチの原則（概要）

- 全体像を把握し、長期的視点で将来に備える
- 社会・経済・技術の変化を踏まえ、国家教育目標と整合した学校改善を推進
- 柔軟で持続可能なソリューションを重視
- テクノロジーを活用した人間中心設計で、生徒のエンゲージメント、協働、ウェルビーイングを強化
- 学習者中心・パーソナライゼーションを重視し、生徒の声を反映した学校開発
- 多様な学習者とニーズに対応する公平性・包摂性を確保

次の講演

チュア・ビー・レン准教授

21世紀の教育と学び

ーイノベーションと施設環境、技術の観点からー

ご清聴ありがとうございました。



すべての権利はタン・ウン・セン  
／シンガポール国立教育研究所が有します。  
無断転載を禁止します。